

私の大切な弟

三年 大澤璃子

本当の弟はいません。私の大切な弟というのは、私が2さいの時にわが家に来た犬のるんなんです。私は「犬」という言葉をあまりつかいたくないくらいるんが大好きです。

今、るんるんは7さいです。るんるんと私は一緒に大きくなりました。最近のるんるんは顔に白がまざってきています。犬のじゅ命は人間よりも短いので年をとるスピードが早いです。るんるんの白を見ると「おじいちゃんになってきたなあ」とちよっぴり切なくなります。

今年の一月におばあちゃんの家の犬のねねちゃんがろうすいで死んでしまいました。ねねちゃんはいつものようにねているみたいでした。ねねちゃんは目が見えなかったり、耳の病気があったのでお世話が大変だったと思います。でも、おばあちゃんはそんなねねちゃんをとともかわいがっていました。ねねちゃんはすごくしあわせだったと思います。

ねねちゃんみたいにしあわせな犬ばかりではなく、かわいそうな犬もたくさんいることを私は本やニュースで知りました。コロナウイルスのステイホームでペットブームがあっているいろいろな動物が捨てられてしまい、殺しよぶんされているそうです。また、お金もうけのために子犬をうませようとせまい場所で大くさんの犬を十分なお世話もせずにしくされていた犬たちのニュースも見ました。「子犬工場」と呼ばれていました。

私は、人間ってひどいなと思いました。自分勝手だなと思いました。なんでそんなことできるんだろ？と思いました。人間と同じ命なのに…

るんるんもつと年をとったら、目が見えなくなったり耳が遠くなったり、もしかしたら病気になるってねたきりになってしまいかもしれません。でも私はるんるんとこれからたくさん時間を一緒にすごして、おじいちゃんになつたるんるんも今と変わらず大好きでいられる自信があります。

あまり考えたくないけれど、るんるんがたび立つ時には、うちの子でよかったなと思ってもらいたいです。

今、こうして作文を書いている時もあるんるんは私のそばでしあわせそうにねています。そんなるんるんを見ていると心がとっても温かくなります。私はるんるんと出会ってよかったなと思います。